

科目責任者 三田 充男（総合臨床薬学教育研究講座／循環薬理学）

## ■ 教育目的

薬理学Ⅰと同様の目的をもって講義をする。薬理学Ⅰにおける中枢神経系に引き続き、自律神経系の伝達物質並びに自律神経系に作用する薬物について、受容体、作用機序、臨床応用、副作用などを理解することを目的とする。さらに、生体の防御機構に関与する内因性物質であるオータコイド関連について理解し、いくつかの重要な疾病の治療に直結した治療薬に関し、受容体、作用機序、臨床応用、副作用などを理解することを目的とする。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-②、YD-③、SD-②、SD-③】

## ■ 学習到達目標

1. 末梢神経系の自律神経系と体性神経系の形態・機能を列挙し、代表的な作用薬の薬理作用、作用機序及び主な副作用について説明できる。
2. アレルギー、炎症及び免疫に関連した生理活性物質を列挙し、その薬理作用及び病態における役割を説明できる。
3. 各種疾患、病態に用いられる代表的な治療薬を挙げ、その薬理作用、作用機序、臨床応用及び主な副作用を列挙し、薬物の基礎理論と臨床応用との関連を説明できる。

## ■ 準備学習（予習・復習）

予習：講義内容に関連した生理学の部分を復習しておくこと。

復習：講義プリント読み返して、理解できなかった部分に関しては参考書等で調べる。それでも理解できない時はメール等で質問して、内容をしっかり理解するようにすること。

## ■ 授業内容

交感神経系と副交感神経系の概説、末梢神経系の薬理（ノルアドレナリン、アドレナリン、アセチルコリン関連薬物、神経節作用薬、局所麻酔薬、神経筋接合部作用薬など）、アレルギー・免疫炎症系の薬理などに関して講義する。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	自律神経系に作用する薬	自律神経総論 (必要に応じて、マルチメディア学習やインターネットによる解答を取り入れる。以下同様)	C7(1)-④-2 C7(2)-①-1 C7(2)-①-2
2	//	自律神経総論	C7(1)-⑤-1 C7(2)-①-4
3	//	交感神経興奮様薬及び遮断薬	E2(1)-①-1 E2(1)-④-1 E2(3)-①-2 E2(4)-①-1
4	//	副交感神経興奮様薬及び遮断薬	E2(1)-①-2 E2(1)-④-1 E2(3)-③-4 E2(4)-①-2 E2(4)-②-6
5	//	自律神経節刺激薬及び遮断薬	C7(2)-⑤-1 E2(1)-①-3 E2(1)-④-1
6	//	眼に作用する薬物	E2(1)-④-1 E2(6)-①-1
7	体性神経系に作用する薬	局所麻酔薬	E2(1)-②-1 E2(1)-④-1
8	//	神経筋接合部刺激薬及び遮断薬	E2(1)-②-2 E2(1)-②-4 E2(1)-④-1
9	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬	オータコイド総論（ヒスタミン、セロトニン）及びその関連薬	C7(2)-③-1 E2(1)-③-11 E2(2)-②-1 E2(2)-②-3 E2(4)-②-1 E2(4)-②-8 E2(6)-②-1

No.	項目	授業内容	SBO コード
10	//	オータコイド総論（ポリペプチド類、アラキドン酸代謝物、サイトカイン）及びその関連薬	C7(2)-③-1 C7(2)-④-1 C8(2)-①-1 E2(2)-①-1 E2(2)-②-2 E2(4)-②-4
11	//	アレルギー治療薬	E2(2)-②-1 E2(2)-②-3 E2(2)-④-1
12	//	免疫抑制薬	E2(2)-②-2 E2(2)-④-1
13	抗炎症薬	抗炎症薬（非ステロイド性抗炎症薬）	E2(2)-①-1 E2(2)-①-2 E2(2)-④-1
14	//	抗炎症薬（ステロイド性抗炎症薬）	E2(2)-①-1 E2(2)-①-2 E2(2)-④-1
15	骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬	関節リウマチ治療薬	E2(2)-③-1 E2(2)-④-1

### ■ 授業分担者

三田 充男（No. 1～15）

### ■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

講義範囲の過去の国家試験問題を MY-CAST にアップロードし、随時質問に応じる。

当該年度の定期試験の解答は試験終了後 MY-CAST にアップロードし、質問等を受け付け、解説・説明する。

成績の評価は学期末試験の成績（100％）で評価する。

### ■ 教科書

講義プリント

### ■ 参考書

『薬がみえる vol.1、vol.2』医療情報科学研究所 編（メディックメディア）

『NEW 薬理学』田中 千賀子 他 著（南江堂）

『コンパス薬理学』櫻田 司 編集（南江堂）

『グッドマン・ギルマン薬理学（上・下）』高折 修二 他 監訳（廣川書店）